



「ん」の一筆は、  
長寿世界一の  
泉重千代翁の  
直筆によるものです。

んと強く、  
んと大きく、  
んと明るく、  
んと楽しく、  
んと若々しく、  
んと豊かに、  
んと健康に、  
そして

んと長寿を、  
との願いが  
込められています。

## 泉重千代翁と「ん太鼓」との出会い

※当時の社長 近藤成章氏の述懐を要約編集したものです

昭和五十七年一月元旦の日本経済新聞に、巨木を前に浅野家十六代当主浅野義雄氏の巨大太鼓づくりの夢が紹介された。この記事を見て私は、この太鼓に「人々の願いを明るく照らす希望に満ちた魂の響き」を託したいと思い浅野氏と出会ったのがドラマの始まりとなった。

この巨大太鼓に「明日を切り開く天に祈りをこめる」ため「ん」の揮毫を入れることを思い立ち、日本中の候補者を訪ね歩き、ようやく鹿児島県徳之島の伊仙町で生まれ育った、当時長寿世界一（百十九才）の泉重千代氏に出会うことが叶いました。

「ん」と豊かに。「ん」と元気に。「ん」と明るく。「ん」と楽しく。「ん」と若々しく。「ん」と長生きする。.....すべてが「ん」と良くなるに通じる「ん神様」を呼ぶ招福の太鼓です。泉重千代翁直筆の「ん」は、太鼓の胴に金箔文字で描かれ太鼓も揮毫も世界一を誇る最高の良縁となりました。

完成した、昌運福寿「ん」太鼓の一般公開は、名古屋市で開催された「名古屋城博'84」でお披露目され、約四万人が「一打入魂」の太鼓を打ち鳴らした。その後、昭和六十年科学万博つくば'85「日本の日」など、全国のイベントで「ん」の昌運福寿をもたらし続けています。

平成三十年五月には、重千代翁の三十三年忌祭が盛大に行われ関係者が全国から参集しました。また、十一月には「長寿と子宝日本一の伊仙町」として内閣府から生涯活躍のまちづくり計画に認定されました。泉重千代翁との絆は千年後も生き続けます。

平成三十一年二月 近藤産興株式会社社長 近藤成章

### 「ん」記念品

- ・「ん」焼酎（奄美群島喜界島黒糖焼酎）
- ・「昌運福寿」の破魔矢
- ・「開ん壽恵廣」の扇子
- ・「黒砂糖」（徳之島産品）
- ・「億萬石かりんとう」
- ・「陣中かりんとう」



科学万博つくば'85「日本の日」出演